



消防学校 ニュース



令和 5 年 12 月号

女性消防吏員講習(第6回)

～新たな気付きの構築～

令和5年11月29日(水)から12月1日(金)までの3日間、女性消防吏員講習を実施し、県内9消防本部(局)から様々な職域の12人が参加しました。

この講習では、専科教育への入校実績が少ない女性消防吏員の職域拡大を目的とし、火災防ぎょを中心とした実科訓練や学生主体の想定訓練、女性活躍推進に係る事例研究及び座学を実施しました。

《チームビルディング》



《注水要領》



《全員で情報共有》



《火災救助想定訓練》



(担当教官から)

本講習は、現場活動の能力向上及び女性消防吏員の職域拡大を主眼として実施しました。

また、講義の中で得た多くの「気付き」を今後の業務及び現場活動に活かすよう指導しました。

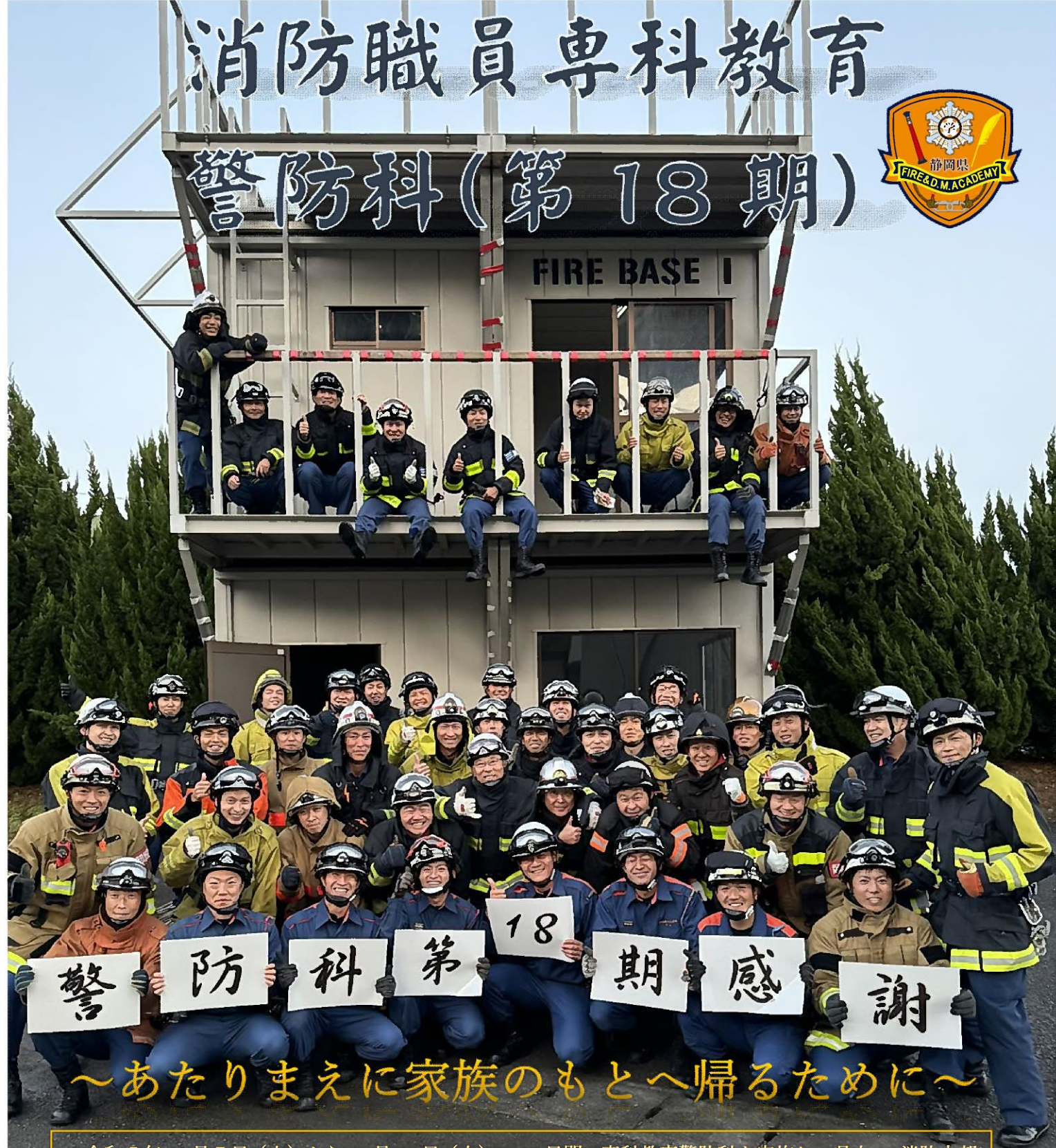
3日間という短い期間でしたが、学生同士で話し合う姿が多く見られ、最終日の想定訓練では、素晴らしいチームビルディングが構築されていました。例えば、指揮隊を中心とした統制された活動が展開され、講習期間中のチームビルディングの成果があらわれたと感じました。

所属に戻ってから、講習で得た知識や技術を業務に還元することが大事です。今回の講習で得た「気付き」が今後の方向を考えるきっかけとなること、そして、風通しの良い職場環境づくりへの一歩となればと願っています。

教務課主査 水野 清人 (磐田市消防本部から派遣)

消防職員専科教育

警防科(第18期)



～あたりまえに家族のもとへ帰るために～

令和5年11月7日(火)から11月22日(水)の12日間、専科教育警防科を実施し、県内16消防本部(局)から42人が参加しました。近年における建築様式等の変化に伴い、建物火災時には屋内進入を強いられることが増加しており、消防職員の負傷や殉職という最悪の事故も連続して発生しています。各隊員が不完全な知識や技術をもって活動することほど危険なことはありません。このことから、小隊を統制する小隊長クラスの火災対応能力の向上が急務であると考え、今年度も建物火災に特化したカリキュラム構成で実施しました。警防科のカリキュラムは屋外での実科訓練が多くなりますが、学生は積極的に訓練に励んでいました。また、学生主体で火災時の屋内進入要領を作成し、安全な活動を考える時間を設けました。御協力いただいた方々には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



CAMP FUJI FIRE

米海兵隊キャンプ富士校外研修



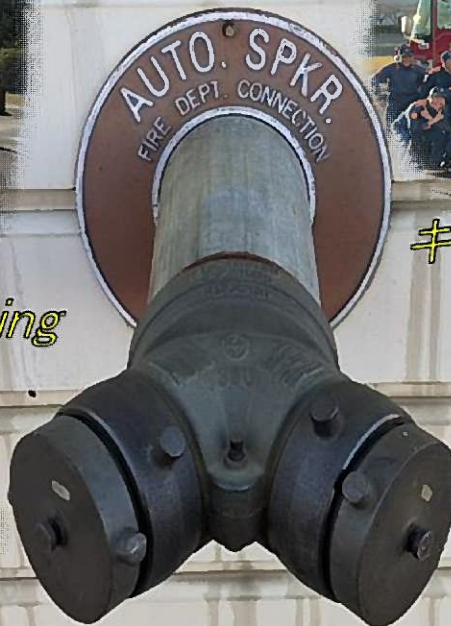
欧米と日本の戦術を互いに学び合う場となった。



Flash Over Training



キャンプ富士講師に感謝



Search & Rescue



安全を最優先に考えた屋内進入活動

我々は消防のプロである



(担当教官から)

近年、消火活動に係る戦術や装備を含めた機械器具は時代の移り変わりとともに変化し、消防隊にも日々進歩することが求められています。そのため、今年度の警防科は火災対応能力の強化に加え、安全管理体制の向上を目標としました。まずは、火災性状を把握することが重要です。そこからの確かなサイズアップ（建築様式・環境・煙・酸素・熱・炎・生活様式等）と状況に応じた戦術選択が、迅速な人命救助や効果的な消火活動に繋がります。

12日間という短い期間でしたが、仲間と協力して一つの訓練を成し遂げる達成感や難しさを体験することで、学生同士の絆が深まったと感じました。修了生の皆さんには、警防科で習得した知識や技術を、世代を超え多くの職員に対しフィードバックしていただくことを期待します。最後に、警防科第18期で出会えた学生、講師の方々、そしてこの教育を担当をさせていただいたことに感謝します。

教務課主査 望月竜之介（志太消防本部から派遣）

中級幹部科 (第37期)

～ 絆 ～

令和5年11月13日(月)から22日(水)までの8日間、中級幹部科を実施し、県内15消防本部(局)から20人が入校しました。

この中級幹部科は、「幹部としての責任及び立場を正しく認識し、消防及び社会全般の動向を理解すること」、「迅速かつ的確な意思決定に基づき、上司を補佐し、部下を指揮監督することにより、組織を管理できること」、「事故及び事件の発生時に迅速かつ的確な初動対応ができること」、「災害現場において、現場指揮者として、災害状況全般の把握、的確な安全管理及び下命を行えること」を目的としています。



『指揮とは、情報を基に災害と戦うことである。』

『指揮とは、災害から隊員を守ることである。』

『指揮とは、訓練で磨く特殊技能である。』

講師の言葉です。組織において、指揮する立場の皆様がここに集まり、時間を共有し、高い意識と緊張感で取り組む姿勢は担当教官として刺激を受けました。皆様との出会いに心から感謝します。

『絆』を大切に、今後の皆様の益々のご活躍を祈念しています。

教務課主査 山下 大輔(駿東伊豆消防本部から派遣)

消防団員専科教育 警防科 (第18期)

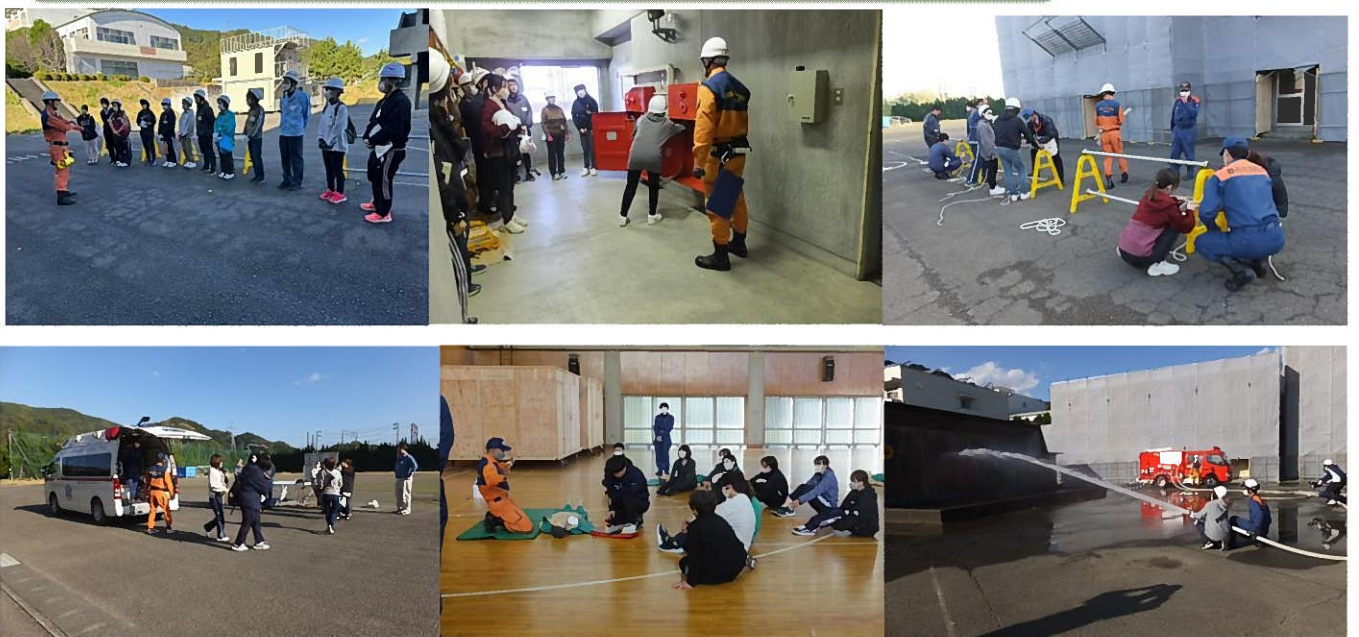


令和5年11月26日(日)に警防科を実施し、県内の消防団から63人が参加して放水器具取扱い訓練等を行いました。

(担当教官から)

警防科は火災対応に特化したカリキュラムですが、本県は南海トラフ地震の被害想定地域であることから、消防団員のみで災害対応できる能力育成に力を入れました。火災現場で状況把握ができ、必要な消火方法の選択ができる。そして、延焼阻止と火災鎮圧を同時に目指すことを目標としました。また、人命救助を最優先に考えていただくため、想定訓練を実施しました。真剣に取り組むその姿に、改めて消防団員の頼もしさを感じました。 教務課主査 山田 友也 (静岡市消防局から派遣)

民間防火組織指導者消防学校体験入校





令和5年11月28日(火)、民間防火組織指導者74人が消防学校に体験入校しました。

初めての体験に驚きの連続でしたが、自分なりの気づきを学び、貴重な経験を得た方が多かったです。今後、職場や家庭で、今回習得した技術と心構えを活かしてくれる事を期待します。

【民間防火組織指導者とは】

住居からの火災発生を防止するため、家庭の女性及び少年を中心に防火意識の啓発のために育成された女性防火クラブ・少年消防クラブ・幼年消防クラブの指導者を指す。

教務課主査 山田友也 (静岡市消防局から派遣)

三沢校長から一言

前号で焼津漁港において高圧ガス・危険物防災訓練が行われた話をしました。お昼過ぎの開始だったため、昼食はふと思いついて「中華そば 蔵 焼津大住店」にいきました。キムチが浮いたピリ辛スープにお好みで酢を混ぜて食べる「カナキン亭」流の味です。蔵には約30年ぶり、前はゴルフの帰りに先輩に連れていってもらいました。その先輩は残念ながら2年ほど前に若くして亡くなっています。時に厳しく、時に優しくゴルフを教えてくれた姿が懐かしく思い出されます。

さて、衣替えをして久しいですが、私は冬物のスーツが全て入らなくなりました。転勤に合わせて新調した2着も入りません。脂肪を燃やすサプリメントも試しましたが、全く効果はありませんでした。原因は学校の給食です。さすがに白飯の量は減らしますが、おかずの量は調整できず、学生と同じ量を食べています。私たちは学生が食事の量が足りないと言えればそれを給食業者に伝えなければいけない立場、それがごろごろ残してゴミ箱行きというわけにはいかないんです。妻には晩酌の缶チューハイを2本から1本にしろと言われてはいますが、意志が弱く、腰が悪いためまともに運動もできません。言い訳ばかりですね。明日は消防学校の忘年会、中華のコースに飲み放題、熱い紹興酒に砂糖入れて飲むのを楽しみにしてるようじゃ痩せませんよ。

コロナは下火のようですが、インフルエンザが流行っています。風邪などひかぬよう注意し、よいお年をお迎えください。

来年もよろしくお祈りします。私は年男です。残念ながら48歳ではありません。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索